

一 a 習慣 b 包装 c 操縦 d 垂(れる)

二 イ

三 ウ

四 クラスになじんだ上で、勉強や運動など何かしらの点で突出し、クラスの力関係の中で強い立場にいる生徒たち。

五 家でも学校でも、ほとんど誰とも言葉を交わさず、共に生きている実感が無い孤独な状況。

六 自分の精神的な命綱のようなもの

七 エ

八 強い生徒が優位な学校で安心できる居場所がなく、なじめない他人との関係に気を悩ませている草児にとって、食べたり食べられたりする関係もなく、静かな環境で静かに生きていられるエディアカラ紀の生物はうらやましいから。

九 他の大人とは違い、自分の事情に共感してくれ、自分と同じように頻繁に博物館を訪れている人なので、普通の大人が理解しないだろう草児の興味を分かってくれるかもしれない、と自然に感じたから。

十 自分が帰ってこなかったら、心配して悲しんでくれる母親という大事な存在が自分にはいる、ということ。

十一 杉田くんに話しかけられ、自分と同じで恐竜が好きだと確認したことで、いままで学校に自分の居場所がないと感じていた孤独がやわらぐ気持ち。

十二 学校でも家でも周囲になじめず孤独な草児に居場所を与えてくれ、好きな古代の生物を、誰にも干渉されることなく透明な仕切りごしに眺めることで現実逃避できる、心の支えとなる場所。

十三

1 杉田くんという話し相手ができただことで、居場所がなかったクラスになじめるかもしれないと思いつき始め、家族と行った外食では母や祖母と心を通わせることができた。そんな中で飲んだコーラに味がしたことは、孤独な時に味覚を失う経験をしていただけに、いっそう幸せを実感させるできたことだったから。

2 辛い現実から逃れられる博物館という場所に出会った男が大事な人と仲良くしている姿を見たことで、互いに大事な人と充実した日々を送れることを期待するとともに、幸せな現実の世界では接触すべきではないと男から暗に示されたことをさびしくも思ったから。